

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第88期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	三井製糖株式会社
【英訳名】	Mitsui Sugar Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 飯田 雅明
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
【電話番号】	(03)3663-3111
【事務連絡者氏名】	経理部長 小塚 智広
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号
【電話番号】	(03)3663-3111
【事務連絡者氏名】	経理部長 小塚 智広
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第87期 第2四半期連結 累計期間	第88期 第2四半期連結 累計期間	第87期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	39,986	40,600	80,720
経常利益(百万円)	4,940	3,367	6,963
四半期(当期)純利益(百万円)	2,985	594	4,034
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,105	582	4,067
純資産額(百万円)	51,581	51,822	52,132
総資産額(百万円)	68,956	69,448	71,538
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	22.22	4.44	30.03
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	73.60	73.39	71.72
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	2,474	1,045	5,539
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	992	2,171	2,586
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,504	831	874
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	3,348	3,492	5,450

回次	第87期 第2四半期連結 会計期間	第88期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	9.39	5.54

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 第87期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、砂糖事業において連結子会社スプーンシュガーウエスト(株)は、平成23年4月1日付で連結子会社スプーンシュガー(株)及び連結子会社(株)スプーンフーズを吸収合併し、商号をスプーンシュガー(株)に変更しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による急激な落ち込みに対し、サプライチェーンの立て直しや各種政策効果もあって、やや持ち直しつつありましたが、後半にきて欧州債務問題に起因する急激な円高や海外経済の失速を受け、回復速度は緩やかなものとなりました。国内食品業界においても個人消費が低迷する中、穀物やエネルギーなど資源高の影響を受け厳しい状況となりました。また、先行きについても震災以前からのデフレ傾向や厳しい雇用情勢に加えて電力供給の制約など原発事故の影響も懸念され、依然として厳しい状況が継続すると思われま

セグメントの概況は以下の通りであります。

#### （砂糖事業）

砂糖事業におきましては、原料面ではタイやブラジルの増産見通しなどを背景に5月初旬まで下落局面が続いた海外粗糖相場が、ブラジルの生産伸び悩みなどにより反転し7月下旬まで上昇を続ける展開となり、その後世界的な景気減速懸念から商品市場も崩れ一時下落しましたが、8月下旬よりブラジル生産量の大幅な下方修正の見通しから再度上昇するなど、総じて期を通じて海外粗糖相場が高水準かつ動きの激しい状況にあり、コスト圧迫要因となりました。

売上高としては国内販売価格水準の上昇を背景に前年同期を上回る結果ではありますが、震災により工場生産設備に一部被害を受けたことなどから販売量は前年同期を下回りました。

生産面では、第1四半期では被災した生産体制の早期の復旧、第2四半期では原発事故の影響に伴う節電対応や省エネ活動に努めましたが、原油相場が高水準で推移したことにより燃料費が悪化したしました。

なお、第2四半期においてリテール向けに「1/2三温糖250g」など機能性アイテム4商品の新発売を行い、またプロモーション活動としてイベントの開催や消費者キャンペーンを実施いたしました。

以上の結果、砂糖事業の売上高は36,398百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益は2,010百万円（同47.9%減）となりました。

#### 期中の砂糖市況

国内市中相場（日本経済新聞掲載、東京上白大袋 1kg当たり）

始値189～190円 高値189～190円 安値185～186円 終値185～186円

海外粗糖相場（ニューヨーク砂糖当限、1ポンド当たり）

始値27.11セント 高値31.85セント 安値20.40セント 終値26.03セント

#### （食品素材事業）

食品素材事業におきましては、主にガーデニアン色素の水産加工品向け販売量が増加するなど色素事業が牽引し、パラチノース®やエキス事業の輸出版売減少分を補完したことにより、売上高は3,525百万円（前年同期比5.9%減）、営業利益は227百万円（同9.4%増）と前年同期並の業績となりました。

#### （不動産事業）

不動産事業におきましては、賃料相場の低迷等、厳しい環境となる中、引き続き社有不動産の効率的活用に努めました結果、不動産事業の売上高は676百万円（前年同期比7.6%減）、営業利益は385百万円（同7.9%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は40,600百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は2,622百万円（同41.5%減）となりました。

営業外損益においては、受取ロイヤリティー 224百万円を計上したこと、またタイ国関係会社の堅調な業績から持分法による投資利益383百万円を計上したことなどにより、経常利益は3,367百万円（前年同期比31.9%減）となりました。

特別損益においては、生産性の向上を目的とした生産拠点の見直しを検討し、平成23年11月7日開催の取締役会において、平成24年9月末をもって岡山工場における精製糖生産を終了し、神戸工場へ生産集約することについて決議したことに伴い、減損損失2,009百万円を計上したことなどにより四半期純利益は594百万円（前年同期比80.1%減）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は3,492百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,957百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は1,045百万円（前第2四半期連結累計期間は資金の増加2,474百万円）となりました。

これは主として、税金等調整前四半期純利益1,332百万円、減価償却費1,106百万円、減損損失2,009百万円等により資金が増加した一方で、たな卸資産の増加720百万円、売上債権の増加244百万円、未払費用の減少433百万円、仕入債務の減少346百万円及び法人税等の支払1,350百万円等により資金が減少したことによるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は2,171百万円（前第2四半期連結累計期間は資金の減少992百万円）となりました。

これは主として、有形固定資産の取得による支出2,011百万円等により資金が減少したことによるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は831百万円（前第2四半期連結累計期間は資金の減少1,504百万円）となりました。

これは主として、自己株式の取得による支出351百万円、配当金の支払536百万円等により資金が減少したことによるものであります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、236百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	141,667,400	141,667,400	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は1,000株であります。
計	141,667,400	141,667,400	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	141,667,400	-	7,083	-	1,177

( 6 ) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
三井物産株式会社 ( 常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社 )	東京都千代田区大手町一丁目 2 - 1 ( 東京都中央区晴海一丁目 8 - 12 )	43,045	30.38
三井製糖株式会社	東京都中央区日本橋本町二丁目 8 - 2	8,111	5.73
ゴールドマン・サックス・アンド ・カンパニーレギュラーアカウン ト ( 常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社 ) J.P MORGAN CLEARING CORP-SEC	200 WEST STREET NEW YORK,NY,USA ( 東京都港区六本木六丁目10- 1 )	5,181	3.66
( 常任代理人 シティバンク銀行 株式会社 )	THREE CHASE METROTECH CENTER,BROOKLYN ,NEW YORK 11245 U.S.A ( 東京都品川区東品川二丁目3-14 )	3,349	2.36
三井住友海上火災保険株式会社	東京都中央区新川二丁目27 - 2	3,154	2.23
豊田通商株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅四丁目 9 - 8	3,000	2.12
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社 ( 信託口 )	東京都中央区晴海一丁目 8 - 11	2,890	2.04
双日株式会社	東京都港区赤坂六丁目 1 - 20	2,500	1.76
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目 1 - 2	2,430	1.72
エムエルアイ イーエフジー ノン コラテラル ノン トリーティ ア カウント ( 常任代理人 メリルリンチ日本 証券株式会社 )	MERRILL LYNCH FINANCIAL CENTRE.2 KING EDWARD STREET.LONDON EC1A 1HQ ( 東京都中央区日本橋一丁目 4 - 1 )	1,965	1.39
計	-	75,626	53.38

( 注 ) 上記三井物産株式会社 ( 常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社 ) の所有株式数には、三井物産株式会  
社名義の株式が13,701千株含まれております。

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 8,511,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 132,372,000	132,372	同上
単元未満株式	普通株式 784,400	-	同上
発行済株式総数	141,667,400	-	-
総株主の議決権	-	132,372	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数1個)含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
三井製糖株式会社	東京都中央区日本橋本町二丁目8-2	8,111,000	-	8,111,000	5.73
南西糖業株式会社	東京都千代田区岩本町三丁目2-9	400,000	-	400,000	0.28
計	-	8,511,000	-	8,511,000	6.01

2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	5,458	3,500
受取手形及び売掛金	4,488	4,732
商品及び製品	4,085	4,539
仕掛品	1,709	1,578
原材料及び貯蔵品	5,438	5,836
繰延税金資産	548	522
その他	302	273
貸倒引当金	10	11
<b>流動資産合計</b>	<b>22,021</b>	<b>20,973</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	24,077	23,847
減価償却累計額	16,118	16,349
建物及び構築物(純額)	7,958	7,497
機械装置及び運搬具	39,453	38,738
減価償却累計額	32,269	32,662
機械装置及び運搬具(純額)	7,183	6,075
工具、器具及び備品	1,619	1,616
減価償却累計額	1,343	1,330
工具、器具及び備品(純額)	275	286
土地	19,682	18,906
リース資産	44	50
減価償却累計額	15	20
リース資産(純額)	28	30
建設仮勘定	1,045	1,827
<b>有形固定資産合計</b>	<b>36,174</b>	<b>34,624</b>
<b>無形固定資産</b>		
無形固定資産合計	55	215
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	12,336	12,642
長期貸付金	59	53
繰延税金資産	129	139
その他	781	818
貸倒引当金	19	19
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>13,287</b>	<b>13,634</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>49,517</b>	<b>48,475</b>
<b>資産合計</b>	<b>71,538</b>	<b>69,448</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,382	6,038
短期借入金	-	1,000
1年内返済予定の長期借入金	1,324	540
リース債務	8	9
未払費用	2,566	2,133
未払法人税等	1,330	1,116
未払消費税等	31	169
役員賞与引当金	68	25
その他	1,074	852
流動負債合計	12,786	11,886
固定負債		
長期借入金	1,185	1,035
リース債務	21	22
繰延税金負債	1,216	750
退職給付引当金	1,792	1,668
資産除去債務	56	56
長期預り保証金	1,022	970
その他	1,324	1,235
固定負債合計	6,619	5,739
負債合計	19,406	17,625
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,083	7,083
資本剰余金	1,254	1,255
利益剰余金	46,081	46,134
自己株式	2,566	2,914
株主資本合計	51,851	51,558
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	171	144
繰延ヘッジ損益	0	10
為替換算調整勘定	713	723
その他の包括利益累計額合計	541	589
少数株主持分	821	854
純資産合計	52,132	51,822
負債純資産合計	71,538	69,448

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	39,986	40,600
売上原価	30,320	32,769
売上総利益	9,666	7,831
販売費及び一般管理費		
配送費	1,181	1,235
役員賞与引当金繰入額	33	23
退職給付引当金繰入額	74	75
その他	3,891	3,873
販売費及び一般管理費合計	5,180	5,208
営業利益	4,485	2,622
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	51	54
受取ロイヤリティ	0	224
持分法による投資利益	446	383
雑収入	47	186
営業外収益合計	547	850
営業外費用		
支払利息	15	12
固定資産除却損	15	31
雑損失	60	61
営業外費用合計	91	106
経常利益	4,940	3,367
特別利益		
合理化対策事業助成金収入	44	61
特別利益合計	44	61
特別損失		
固定資産圧縮損	44	61
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	33	-
減損損失	-	1 2,009
投資有価証券評価損	9	-
災害による損失	-	2 25
特別損失合計	88	2,096
税金等調整前四半期純利益	4,897	1,332
法人税、住民税及び事業税	1,821	1,139
法人税等調整額	45	439
法人税等合計	1,866	699
少数株主損益調整前四半期純利益	3,030	632
少数株主利益	44	37
四半期純利益	2,985	594

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,030	632
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	80	21
繰延ヘッジ損益	0	3
持分法適用会社に対する持分相当額	156	25
その他の包括利益合計	75	49
四半期包括利益	3,105	582
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,061	545
少数株主に係る四半期包括利益	44	37

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,897	1,332
減価償却費	1,095	1,106
固定資産処分損益(は益)	0	0
減損損失	-	2,009
持分法による投資損益(は益)	446	383
退職給付引当金の増減額(は減少)	161	124
受取利息及び受取配当金	53	56
支払利息	15	12
合理化対策事業助成金収入	44	61
固定資産圧縮損	44	61
売上債権の増減額(は増加)	509	244
たな卸資産の増減額(は増加)	640	720
仕入債務の増減額(は減少)	1,407	346
未払消費税等の増減額(は減少)	175	138
その他	324	437
小計	3,570	2,285
利息及び配当金の受取額	53	56
利息の支払額	14	13
合理化対策事業助成金受取額	44	61
法人税等の支払額	1,178	1,350
法人税等の還付額	-	5
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,474	1,045
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	1,002	2,011
有形固定資産の売却による収入	0	1
投資有価証券の取得による支出	18	4
投資有価証券の売却による収入	27	13
その他	1	171
投資活動によるキャッシュ・フロー	992	2,171
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,670	2,200
短期借入金の返済による支出	1,670	1,200
コマーシャル・ペーパーの発行による収入	500	1,500
コマーシャル・ペーパーの償還による支出	500	1,500
長期借入金の返済による支出	557	933
自己株式の取得による支出	2	351
配当金の支払額	937	536
少数株主への配当金の支払額	2	5
その他	4	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,504	831
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	22	1,957
現金及び現金同等物の期首残高	3,371	5,450
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,348	3,492

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
1. 保証債務 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対する連帯保証 クムパワピーシュガー(株) 95百万円 カセットボンシュガー(株) 495百万円 計 590百万円	1. 保証債務 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対する連帯保証 クムパワピーシュガー(株) 60百万円 カセットボンシュガー(株) 341百万円 計 402百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)						
1.	<p>1. 減損損失</p> <p>減損損失を認識した資産グループの概要</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">岡山工場 (岡山市南区)</td> <td style="text-align: center;">精製糖生産設備</td> <td style="text-align: center;">建物及び構築物、機械装置及び運搬具、工具器具及び備品、土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>減損損失に至った経緯 岡山市南区に所在する岡山工場の精製糖生産設備について、資産グループの回収可能価額を著しく低下させる変化が生ずる見込みとなったため、減損損失を認識しております。</p> <p>減損損失の内訳</p> <p>建物及び構築物 299百万円 機械装置及び運搬具 928百万円 工具、器具及び備品 6百万円 土地 775百万円 計 2,009百万円</p> <p>グルーピングの方法 固定資産を砂糖事業グループ、食品素材事業グループと不動産事業グループとに大区分し、さらに砂糖事業グループは工場別に区分しております。食品素材事業グループは主としてパラチノースグループ、色素グループ、寒天・ゲル化剤グループ、バイオグループに区分しております。不動産事業グループは賃貸物件毎に区分しております。なお、遊休資産につきましては、個々の物件毎に区分しております。</p> <p>回収可能価額の算定方法 回収可能価額は使用価値によっており、将来キャッシュ・フローを5.0%で割り引いて算定しております。</p> <p>2. 災害による損失 東日本大震災に伴う災害関連経費であります。</p>	場所	用途	種類	岡山工場 (岡山市南区)	精製糖生産設備	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、工具器具及び備品、土地
場所	用途	種類					
岡山工場 (岡山市南区)	精製糖生産設備	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、工具器具及び備品、土地					
2.							

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)												
<p>1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) (百万円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">3,357</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">8</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,348</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	3,357	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	8	現金及び現金同等物	3,348	<p>1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) (百万円)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">3,500</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を超える定期預金</td> <td style="text-align: right;">8</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,492</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	3,500	預入期間が3ヶ月を超える定期預金	8	現金及び現金同等物	3,492
現金及び預金勘定	3,357												
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	8												
現金及び現金同等物	3,348												
現金及び預金勘定	3,500												
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	8												
現金及び現金同等物	3,492												

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1. 配当金支払額



(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月23日 定時株主総会	普通株式	942	7.0	平成22年3月31日	平成22年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年10月29日 取締役会	普通株式	403	3.0	平成22年9月30日	平成22年12月3日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	538	4.0	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月7日 取締役会	普通株式	400	3.0	平成23年9月30日	平成23年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	砂糖事業	食品素材事業	不動産事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	35,509	3,745	732	39,986	-	39,986
セグメント間の内部売上高又は振替高	18	0	36	55	55	-
計	35,527	3,745	768	40,041	55	39,986
セグメント利益	3,858	207	418	4,485	-	4,485

(注)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	砂糖事業	食品素材事業	不動産事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	36,398	3,525	676	40,600	-	40,600
セグメント間の内部売上高又は振替高	25	-	29	55	55	-
計	36,424	3,525	706	40,656	55	40,600
セグメント利益	2,010	227	385	2,622	-	2,622

(注)セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「砂糖事業」セグメントにおいて、岡山市南区に所在する岡山工場の精製糖生産設備について、資産グループの回収可能価額を著しく低下させる変化が生ずる見込みとなったため、減損損失2,009百万円を計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	22円22銭	4円44銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	2,985	594
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	2,985	594
普通株式の期中平均株式数(千株)	134,356	134,036

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<p>当社は平成23年11月7日開催の取締役会において、平成24年9月末をもって当社生産拠点の1つである岡山工場(岡山市南区)における精製糖生産を終了し、神戸工場へ生産集約することを決議いたしました。</p> <p>(1)岡山工場における精製糖生産終了の理由 当社は、第3次中期経営計画の中で、コスト、品質・サービス、商品開発力及び人材の優位性等を確立することに取り組んで参りましたが、我が国における砂糖消費量の漸減傾向が続く中、低稼働率を余儀なくされている神戸・岡山の2工場の精製糖生産を集約することで、一層のコスト削減と人材資源の活用等を図ることといたしました。 また神戸工場につきましては、現在進行中のグラニュー糖設備更新工事に加えまして、生産効率性の追求と品質向上を目的とした2,143百万円の追加設備投資を実施する計画にしております。</p> <p>(2)岡山工場の概要 所在地：岡山県岡山市南区 事業内容：主として精製糖の生産 敷地面積：約84,000㎡ 従業員数：62名(平成23年9月末) 生産実績：14,143百万円(平成23年3月期 販売価格換算)</p> <p>(3)精製糖生産終了の時期(予定) 精製糖生産終了の時期：平成24年9月 従業員の処遇につきましては、原則として配置転換を予定しております。</p> <p>(4)精製糖生産終了が営業活動等へ及ぼす影響 岡山工場における精製糖生産を神戸工場へ集約するため、今後の営業活動等へ及ぼす影響は軽微であります。</p>

## 2【その他】

平成23年11月7日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....400百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....3円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年12月2日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月8日

三井製糖株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 油谷 成恒 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井製糖株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井製糖株式会社及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。